



「南無阿弥陀仏ってなに？」

慈光照護のもと、門信徒の皆様にはますます

すご清祥のことと慶賀に存じます。

さて、ご開山親鸞聖人の開かれた浄土真宗という教えは、お念仏のみ教えと言われる。お念仏はきちんと表記すれば「ナモアミダブツ」ですが「ナンマンダブ」とか「ナマンダブ」などと称えることが多いように思われます。いったいこれはどういうものなんでしょうか？何かの呪文？キリスト教のアーメンみたいなもの？特にお若い方々には、『宗教はすべて怪しくうさん臭いもの』という印象を持つていらつしやる方が多くて悲しくなります。それも仕方ありません。オウムの事件はもちろん、何十万円もする壺を買えば病気が治るとかいう宗教まがいのものも少なくないからです。本当の宗教とはなんでしょう。『私の願いをかなえていただくこと』でしょうか。そうではないでしょう。交通安全・商売繁盛・無病息災・合格祈願……これらはみな私の願いに煩悩で

す。浄土真宗はそうではありません。『仏様の願いを聞かせていただく』のです。仏様とは阿弥陀如来(阿弥陀仏)、願いとは本願、つまり、すべての衆生を必ず救うとお誓いくださいましたことのお云われを聞かせていただくのです。その証拠に、浄土真宗のお寺にはどこに行ってもお守りは売っていません。売れば儲かるんでしょうけど。また、西本願寺のような世界遺産であつても、拝観料などいただかないのです。

南無とはインドの namas という言葉から来ています。インドのあいさつの「ナマス」と同じ語源ですよ。意味は「帰依する」「順う」「まかせる」ということですから、南無阿弥陀仏とは、「阿弥陀仏に南無する」という意であつて、「ひかりといのちが限りない阿弥陀仏に、帰依し順いまかせます」ということになります。

浄土真宗の門徒が朝夕お勤めする「正信念仏偈(略して正信偈と言っています)」にこのようない節があります。

極重悪人唯称仏 我亦在彼撰取中
煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我

「きわめて罪の重い悪人(私のこと)はただ念仏すべきである。私もまた阿弥陀仏の光明の中に摂め取られているけれども、煩惱が私の眼をさえぎつて、見たてまつることができ

ない。しかしながら、阿弥陀仏の大きい慈悲の光明は、そのようなわたしを見捨てることなく、常に照らしていただく。」ということなのです。ですから、お念仏は何かの呪文ではなく、阿弥陀様の「必ずこの私を救う」というお誓いを聴かせていただいたとき、「はい、おまかせします。」というお返事の言葉なのです。だから、「ナマンダブ」と声となつて皆さんの口からお念仏がでたときに、間違いなく阿弥陀様の願いが皆さんに至り届いていると言えるのです。

ところが、昨今は月参りや報恩講、年忌法要などでご門徒さん宅を訪れて、法要をさせていたただいても、『お念仏が聞こえない』ことが多いのです。僧侶しか念仏していないこともしばしばです。これでは、浄土真宗の法要とは言えません。残念なこと。これから先、次の世代の方々は、浄土真宗のみ教えを受け継いでいってくださるのでしょうか。それは、ぜひご家族でゆつくりお話し合つてください。これからの宗教は、『家の宗教』ではなく、『私の宗教(生きる拠り所)』であるかどうか問われていくのだと思います。この私がお念仏をいただけにしたいならば、それは浄土真宗の門徒ではないと言つてもよいでしょう。

この混迷の時代、あてになるものはなんでしょう。お金？地位？名誉？土地？家

族？仏法を聴かせていただいたとき、本当にあてになるものは何もないことに気づかされるのです。これを**諸行無常**（しよぎやうむじやう）といいます。仏法こそ間違いなくあてになる、ただひとつのものであることを、お念仏の生活の中で聴かせていただくお互いでありたいと思いません。

「御正忌のご案内」

日	14時〜	19時〜
17日 (木)	大速夜 正信偈 法話二席	初夜 十二礼 御伝鈔拝読 法話一席

福井市教応寺住職
本願寺布教使

奥田 順誓 師です。

☆温かいおぜんざいが、今年から昼夜ともにふるまわれます。ぜひご家族そろってお参りいたしましょう。1年のうち、1度も我が寺に参らないなどということのありませんように。

「吉崎別院親鸞聖人750回大遠忌」

「法要事業懇志について」

前号掲載分以降の懇志の進納状況をお知



ご門徒の山内節子さんがお磨きものに来ていただきました。有り難うございます。今年で2年目となる嶋田富美子さんの紙人形展も好評でした。有り難うございます。

らせいたします。

※平成21年12月9日現在

一戸あたり一口二千元以上

一口

貴重な浄財どうも有り難うございました。

「報恩講が執行されました」

おかげさまで、今年も親鸞聖人のご恩に感謝する報恩講をお迎えすることができました。聖人様がいらつしやらなければ、今の寺もお念仏もきつとこの時代まで届いていなかったと思います。再来年の親鸞聖人750回大遠忌には6月と9月の2回、阪北組からバスを連ねてご本山にお参りします。ぜひ今から予定に入れておいてください。ご一緒にお参りいたしましょう。

「編集後記」

日本国内において、新型インフルエンザによる死亡者が、今月100人を超えました。たいへんなことだと思います。しかし、世界では1日に4万人（1年になんと千六百万人）の人が食ることができずに餓死（がし）しているのです。私たちは自分に影響が及ばないことには無頓着だということを思い知らされます。このたび、ご本山にて「食前・食後のことば」が現代社会に合うように50年ぶりに改定されました。毎日食することができると幸せを感じることのできるような生活を取り戻すことが、今の日本人には何よりも大切なことではないかと思えます。

寒くなつて参りますが、御身お厭いいただきますよう念じあげます。

合掌